ALUMNI COMMUNICATION PAPER

兵庫県立川西北陵高等学校 同窓会報

Vol.5
Feb. 2019

Contents

同窓会長・学校長あいさつ …… 2
活躍する卒業生 …… 3
- 大樽瑞葉（30 回生）
- 衣笠　亮（10 回生）

母校だより
- 国際交流 …… 4

理事会報告 …… 6
会計報告 …… 6

ご挨拶

↘ 同窓会長あいさつ

同窓会の皆様におかれましては各方面でご活躍のことと思います。川西北陵高校同窓会会長酒徳浩之（５回生）と申します。

さて、前回の会報時は部分開通だった新名神高速道路が高槻から神戸ジャンクションまで開通し、川西インターへのアクセス道路として東畦野から石道まで県道川西インター線が開通し、地元で暮らしている私でも驚くほどの変化が起こってきています。遠方でお暮らしの方も帰省する際かなり驚かれることと思います。

さて、今年度も同窓会報を発刊することが出来たことをうれしく思っております。また今年度は前回郵送時から３年目に当たるため全会員に郵送させていただくこととしました。また在校生にも同窓会の活動を知っていただく一環として、学校より生徒全員に印刷した同窓会報を配付させていただいております。今後も同窓生との架け橋として、また同窓会と現役世代の架け橋として取り組んで参ります。

また今回も会報を郵送するにあたりご協力いただける方に会報賛助金（寄付）をお願いいたします。これはあくまでも会報を受け取った方すべてに強制的にいただくものではありません。会報を発刊し郵送するためには会員数がおおよそ一万人いるため150万円ほどお金がかかります。ご協力いただける方に郵送での会報発行ごとに会報賛助金をお願いしたいと思います。これからも引き続き会報発行をしていくためにできればご協力よろしくお願いいたします。

最後に役員、広報委員の募集についてお願いします。本会も30周年を越え、会報の定期発行や次世代に向けたホームページでの同窓会活動報告などを考えております。理事会も定期開催を始めましたが、しかしお手伝いいただける方が少ないのが現状です。現在の役員も現役世代の忙しい方ばかりなのでなかなか同窓会活動ばかりに注力出来ない現状もあります。現在会報は驚くほど少ない人数で作っています。ご助力いただける方ぜひご一報ください。

以上簡単ではございますが、近況報告とごあいさつとさせていただきます。今後ともご協力賜りますようお願いいたします。

同窓会長
酒徳　浩之
（５回生）

↘ 学校長あいさつ

県立川西北陵高等学校同窓会の皆さん、こんにちは。平素から母校の教育活動に御理解と御支援をいただき、心から感謝申し上げます。第34回生の皆さん、新たに同窓会に入会され、おめでとうございます。今後は同窓会員として、学校の外から後輩たちを温かく見守り、力強く応援していただければ幸いです。

さて、今年の４月30日で「平成」が終わりますが、平成元年（1989年）というと、本校では第７回生が入学をした年になります。こころみに同回生の卒業アルバムを開けてみると、今とは違うことがいくつか目につきました。

まず、何よりも人数が違いました。１クラス47人の10クラス470人。２年生、３年生も同じ定員でしたので、本校が最も大所帯の年度でした。今や３学年とも１クラス40人の７クラス280人。往時の約６割です。次に、制服が違います。花紺のジャケット（女子はダブル・ブレスト）、紅色のネクタイ、淡いグレーのスラックスかスカートでした。今の制服に変わったのは第27回生からです。さらに、学年行事として夏期生活訓練合宿がありました。１年生が夏休みに鳥取県で２泊３日の水泳訓練を行っていました。第９回生から同学年の４月に行うオリエンテーション合宿へと変わっています。他にも部活動の種目や修学旅行の行き先等が今とは異なっていました。

校長
磯村　要

卒業アルバムからうかがえることは、いわば学校の外見です。では、学校の中身はどうでしょうか。平成18年に教育の目標を記した教育基本法が改正されました。また、各学校の教育計画や学習内容の基準を定めた学習指導要領が平成６年、15年、25年と３回新しくなりました。その都度、科目編成や教科書も変更されました。本校では新しい法令等に従って、その都度、教育目標や教育計画、学習内容等を改善してきました。

この30年間で学校の外見や中身は変わりました。それでも、同じ川西北陵高校として歴史を刻み、生徒は卒業生も含め、みんな「北陵生」と呼ばれます。それはなぜか。どんなに学校が変わっても決して変わらないものが三つあるからだと思います。本校が掲げる校訓と本校が立っている地域と同窓会の皆さんの本校に寄せる思いです。

５月になれば新しい時代が始まります。より大きな変革の波がより早い間隔で繰り返し巡ってくるだろうと思います。その中にあって流行に惑わされず、本当に私どもが大切にしなければならないことを見失わないために、今後とも校訓を堅持し、地域とともに、同窓会の皆さんの思いを大事にした北陵教育を推進していきたいと平成最後の年に思います。

活躍する卒業生

大樽瑞葉 30回生

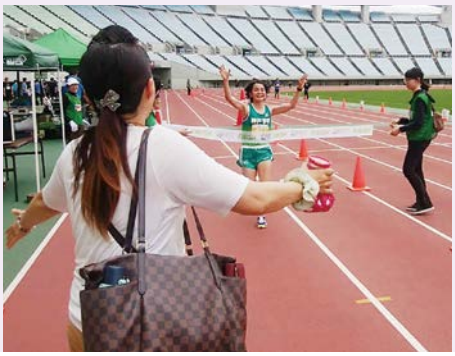
中学の時に陸上を始め、10年になります。中学の時は経験のある指導者がいらっしゃらなかったのですが、顧問の先生は一生懸命に動いて下さり、結果を残すことはできなかったものの楽しく走ることができました。川西北陵高校では良い指導者や先生方、仲間と出会い、充実した3年間を過ごすことができました。元々、短距離系は苦手で、長距離が得意でした。長距離でも距離が長いほうが好きだったので、高校を卒業したらマラソン（19歳からしか出場できないため）に挑戦したいという気持ちがずっとありました。残念ながら高校では県駅伝までしか出場できませんでしたが、もっと上を目指したいと考えるようになり、大学でも競技を続けることに決めました。

大学1年で、高校時代から目標にしていた全日本大学女子駅伝に出場しました。4年間の大学生活の中で一度しか出場できませんでしたが、念願だったマラソンでは大学1年の11月に初マラソンを完走してから4年間で合計8回のマラソンを経験することができました。

陸上競技において、短距離や跳躍、投擲では持って生まれた才能や技術が必要です。その中で、長距離は最も単純な競技です。しかし単純だからこそごまかしの効かない競技とも言えます。特別な才能や技術はなくても挑戦できる競技だから続けることができるのです。走った距離、走った内容がそのまま結果に結び付きます。地道に努力すれば必ず結果はついてくるものであり、時として結果が良くないときでも、手応えを感じることができたり、次に向けてのステップになったりと、努力が無駄になることは絶対にありません。

もちろん、結果が出ないときや調子が悪いとき、怪我をしたり辛かったりと心が折れそうになることもあります。そんなときでも、応援してくれている人や仲間、支えてくれる人がたくさんいてくださるからこそ、目標に向かって諦めることなく頑張れています。たくさんの人にお世話になり、また応援や励ましの言葉、そして背中を押してもらって今の私があります。一人では続けることはできないので、感謝の気持ちでいっぱいです。

大学で初マラソンに挑戦してから、海外のマラソンも経験させていただきました。自分自身の限界までマラソンを極めたいと考え、今春から長崎の実業団へ行き、新しい環境で走らせていただきます。社会人になっても選手として競技を続けられることに感謝し、感謝の気持ちを走りで表現できるように、また多くの人に感動を与えられる走りができるように、新たな目標に向かってより頑張っていきます。



衣笠　亮 10回生

Take Risks
～思い切ってやってみることの意義～

同窓生・在校生のみなさんこんにちは。本校10回生の卒業生であり、英語の教員としても現在本校に籍を置く衣笠です。今年度は兵庫県の交換教員として、西オーストラリア州パースで日本語アシスタントとして働いています。教師になる以前から海外で勝負してみたいという願望があり、この交換教員プログラムのことを知ってから、いてもたってもいられなくなりました。しかし家族の同意が得られるかどうかは全くもって疑問でした。まさにダメ元覚悟で相談すると、パースで一年間だけだったらいい、という予想外の返答が返ってきたので、それならこの機会を逃すまいと、今回挑戦するに至りました。こちらでは日本で言うところのALTという立場であり、教える内容も英語ではなく日本語ですが、“外国語”を教えるという観点ではオーストラリアの生徒も日本の生徒と同様の反応を見せるため、日本での経験がそのまま役に立っています。7年生（中1）から12年生（高3）までのクラスがあり、時にはとても“やんちゃな”生徒たちとも格闘しながら日本語を教えています。こちらでは日本語は必修科目ではないため、学年が上がるにつれて、日本に留学したことがあったり、日本語や日本文化が好きで、かつ成績の良い生徒が大半を占めるので、12年生ともなると相当なレベルの日本語能力を備えている生徒が多数在籍しています。大学受験のためにスピーキングの試験があるということも日本語力を高める大きな要因となっています。日本語だけでなく、少しでも日本の良さを伝えられるように、ある意味「大使」のような気持ちで毎日取り組んでいます。

オーストラリアには驚くほどの多様性が存在し、世界中の民族がいるのではないかと疑うほどです。どの学校でも英語以外に話される言語の種類が数十種類にも及んでおり、数ヶ国語話せる生徒も少なくありません。

生活面では、日本と違って修理を依頼してもなかなか来てくれなかったり、生活習慣の違いで苦労することもありますが、様々な民族が共存し、広大な大地と青々とした空を持つオーストラリアの生活を最大限満喫しています。まさか自分の人生がこのような動きを見せるとは予想だにできませんでしたが、勇気を出して一歩踏み出して本当によかったと思っています。日本で教壇に立っている時も似たようなことを言っていましたが、英語でも同じような表現を見つけたので最後にシェアさせていただきます。Take risks. If you win, you'll be happy. If you lose, you will be wiser.

母校だより

国際交流

西オーストラリア州ニュートンモア高校研修団訪問を終えて

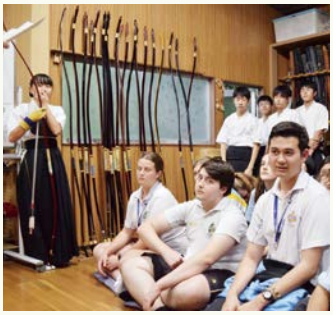
特色・広報部国際理解担当
戸田　直樹

2018年9月30日（日）から10月7日（日）までの日程で、西オーストラリア州ニュートンモア高校研修団10名（教員２名、生徒８名）が本校を訪れ、授業参加やホームステイ等の国際交流を行いました。本校の一大プロジェクトをこの度初めて担当させていただき、研修団の方々へ最高のおもてなしができればと様々な企画を実施いたしました。

９月上旬、大型の台風が接近し、西日本の玄関口である関西国際空港が甚大な被害を受け、ニュートンモア高校研修団の来日が危ぶまれました。彼らの来日は９月26日（水）で、ニュートンモアの教員と連絡をとりながら対応を検討しましたが、関空の復旧が迅速かつ安全に進み、当初のスケジュール通り日本へ到着され、ほっと胸をなでおろす気持ちでした。ただ、本校にてニュートンモア高校研修団の歓迎会を予定していた９月30日（日）にも、西日本での台風接近により歓迎会の中止を余儀なくされ、同窓会・PTAの方々が準備してくださったおもてなしができず、非常に残念でなりませんでした。

ニュートンモア高校研修団が本校を訪問したのは、その翌日の10月１日（月）となりました。朝、交通事情により研修団を乗せたバスが遅れ、歓迎式典が実施できるかハラハラしましたが、無事、式典を開催する事ができました。本校の生徒会長とニュートンモア高校研修団の代表がそれぞれスピーチを行いました。厳粛なムードで執り行われましたが、最後に研修団から、オーストラリアで馴染み深い曲の歌とダンスを披露してくれました。本校の生徒も全員で一緒に踊り、国際交流を肌で感じておりました。

10月1日（月）から10月5日（金）までの本校訪問を通して、授業参加やクラブ見学、校外活動等、様々なイベントを体験してもらいました。授業参加においては、書道や美術、音楽等の日本芸術の体験に留まらず、理科、体育、情報等の教科でも特別授業を行い、北陵生との交流をしてもらいました。美術の授業では、北陵生と協力して透明なうちわに歌舞伎の隈取を描いたものをプレゼントとして渡すと、非常に喜んでくれました。また、クラブ見学においては、オーストラリアにはあまり馴染みのない活動という事もあり、どのクラブ活動も夢中になって見ていました。



前年ニュートンモア高校を訪問した際に、「次年度に北陵高校を訪問する時、ニュートンモア生徒による日本語のプレゼンテーションをしたい」との要望がありました。今回ついに、そのかたちが実現し、校外学習に行った北陵生たちの前でプレゼンテーションを行いました。少しシャイなところを見せつつも、ニュートンモア生徒たちは非常に堂々と発表し、プレゼンテーションは非常に盛り上がりました。

10月５日(金)に行われた送別会では、事前準備の段階から同窓会・PTAの方々のご支援をいただきました。同窓会からはペーパーウェイトとボールペン、PTAからは和風の額入りアートをプレゼントとしてご準備いただき、北陵生が「県立川西北陵高等学校」と一文字ずつ書いた封筒に入れて、研修団一人ひとりに渡しました。プレゼントを前にして笑顔いっぱいになっているニュートンモア研修団を見て、送別会が大成功だったということを確信しました。

私たちにとってこの１週間はあっという間に過ぎてゆきましたが、両校の生徒たちがそれぞれの文化を体験し、お互いにグローバルな視野を持つことができた事は、非常に喜ばしい事だと感じました。今回の国際交流事業を初めて担当し、とまどいながら計画を進めてまいりましたが、送別会や、関空の見送りで別れを惜しむ両校生徒の涙を見たとき、安堵と達成感でいっぱいになりました。こうして受け入れ計画を無事に完遂する事ができたのも、同窓会・PTAの方々からの寛大なご支援、また、ニュートンモア生を暖かく受け入れ、家族のように接してくださったホストファミリーのご協力があったからこそと、心より感謝しております。この国際交流事業が次年度、再来年度へと続き、最高の異文化交流の機会となる事を願っております。引き続き同窓会の皆様方のご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

NMSHS受入日程

9月30日(日)	歓迎会(台風接近の為、中止)
10月1日(月)	歓迎式典、特別授業(書道・調理実習・美術・自己探究)
10月2日(火)	特別授業(情報、音楽、日本語、理科、体育、自己表現)
10月3日(水)	校外学習(インスタントラーメン発明記念館)、クラブ見学
10月4日(木)	校外学習(姫路城)、NM生徒プレゼンテーション、茶華道
10月5日(金)	ホスト生徒と通常授業参加、送別会
10月6日(土)	ホストファミリーと休日
10月7日(日)	関西国際空港より帰国

理事会報告

↘　平成30年度　同窓会理事会報告

　平成30年８月５日（日）11時より県立川西北陵高等学校応接室にて、同窓会理事会が開催されました。

　出席者は同窓会役員および事務局、同窓会理事５名でした。会長より開会宣言の後、磯村校長先生より挨拶と併せて、学校と同窓会との協力関係や支援の状況、北陵高校の取り組みなど報告がありました。

　会長より、同窓会理事会を開くに至った経緯などの説明、同窓会の現状報告などの報告がありました。

　続いて同窓会会計より平成29年度会計報告及び説明、平成30年度の予算案を提示、同窓会会計監査から会計監査報告がありました。

　その後、採決が行われ平成29年度会計報告及び、平成30年度予算案は承認されました。

　閉会後、参加された理事様と同窓会役員、事務局との懇親会があり、親睦を深めることができました。

↘　会計報告

平成29年度　川西北陵高校同窓会収支決算書

通常会計（H.29.4.1～H.30.3.31）

収入の部　（単位：円）

項　目	予算額	決算額	備　考
繰越金	1,678,007	1,678,007	
会費	1,863,000	1,725,000	@150×延11,500人
雑収入	123	20	預金利息
計	3,541,130	3,403,027	

支出の部　（単位：円）

項　目		予算額	決算額	備　考
会議費	総会費	0	0	
	理事会費	50,000	39,257	理事会懇親会
事業費	事業費	600,000	341,064	ボールペン（学校名入り）
			192,100	ネックストラップ（学校名入り）
			225,000	杉の木賞
			100,540	31回生同窓会補助
			83,700	校名入りクリアホルダー
	広報費	300,000	189,000	ビキタサーバー管理費
			203,056	会報2018
	在校生支援事業	200,000	200,000	国際教育振興会
事務費	事務費	50,000	30,000	事務員給与
	小口現金	50,000	35,784	小口現金会計移行
行事積立金		1,300,000	0	
予備費		16,000	0	
計		2,566,000	1,639,501	

［備考］
収入総額 3,403,027－ 支出総額 1,639,501 ＝残額 1,763,526
差し引き残額 1,763,526円は、次年度に繰り越します。

平成30年度　川西北陵高校同窓会予算

通常会計（H.30.4.1～H.31.3.31）

収入の部　（単位：円）

科　目	30年度予算額	29年度決算額	備　考
前年度繰越金	1,763,526	1,678,007	
会費	1,725,000	1,725,000	
雑収入	0	20	預金利息、会報賛助金受け入れ
計	3,488,526	3,403,027	

支出の部　（単位：円）

科　目		30年度予算額	29年度決算額	備　考
会議費	総会費	0	0	
	理事会費	50,000	39,257	理事会開催費
事業費	事業費	450,000	341,064	卒業記念品費
			192,100	ネックストラップ（学校名入り）
			100,540	31回生同窓会補助
			225,000	杉の木賞
	広報費	1,900,000	189,000	ビキタサーバー管理費
			203,056	同窓会報作成費、印刷代
			83,700	クリアホルダー代
	在校生支援事業	200,000	0	学校内施設整備
			200,000	国際交流支援
事務費	事務費	50,000	30,000	事務費、事務員給与
	小口現金	50,000	35,784	小口現金会計移行分
積立金		700,000	0	周年行事、会報発行のための積立金
予備費		88,526	0	
計		3,488,526	1,639,501	

［備考］
広報費が多くなっているのは3年ごとに会報を全会員に郵送する年に当たるため
事業費に20歳を迎える同窓生に対する補助10万円を考慮。

同窓会公式ホームページのご案内

同窓会員の皆様の日常的なコミュニケーションの場となるSNS形式のホームページを運用中です。
懐かしい再会、新しい出会いの場として楽しくご利用ください。

◎登録した名刺から、友達の名刺へメッセージが送れます！
◎コミュニティは会員が自由に参加・コメント開設できますよ！

◎「ID」と「パスワード」は、bikita内よりお問い合わせください。

Bikita 母校・同窓会の情報が満載！ https://www.bikita.jp

携帯版

スマホ版

携帯・スマートフォンから

QRコードから https://www.bikita.jpにアクセスします。

本同窓会は、小野高速印刷（株）の運営する同窓会コミュニティサイトBikita（ビキタ）を利用し、ホームページとメール転送サービスを行っております。

兵庫県立川西北陵高等学校 同窓会報 vol.5 Feb. 2019
発行日／平成31年2月25日　発行／兵庫県立川西北陵高等学校同窓会　住所／〒六六六-〇一五七　兵庫県川西市緑が丘二-一四-一
TEL 〇七二（七九四）七四一一(代)　FAX 〇七二（七九四）七四一二　学校ホームページ／http://www.hyogo-c.ed.jp/~hokuryo-hs/
印刷／小野高速印刷株式会社